

科目名	比較文化論 Comparative Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化の一つである宗教をとりあげ、世界各地で営まれているさまざまな宗教について、比較宗教学の視点から学ぶ。具体的には、学生がさまざまな宗教に関する基礎知識を習得するとともに、世界のさまざまな宗教について、それぞれの特徴、各宗教間の関係が説明できるようにすることを目標とする。		
授業概要	最初に比較宗教学という学問の特徴や、信仰としてではなく文化としての宗教の概念について学ぶ。次に、世界各地で見られる主要な宗教の中から、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、儒教、道教、神道をとりあげ、それぞれの特徴について学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだそれぞれの宗教に関する基礎知識や比較宗教学による見方を習得しているかを問う。		
授業計画	① 文化としての宗教 ② 『旧約聖書』人間観、世界観 ③ ユダヤ教（1） ④ ユダヤ教（2） ⑤ キリスト教（1） ⑥ キリスト教（2） ⑦ イスラーム ⑧ ヒンドゥー教（1） ⑨ ヒンドゥー教（2） ⑩ 仏教（1） ⑪ 仏教（2） ⑫ 儒教 ⑬ 道教 ⑭ 神道 ⑮ 宗教の分類 ⑯ 試験（記述式、持ち込み不可）		
予復習等	【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認する。 【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%（授業の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『よくわかる宗教学』／編：櫻井義秀・平藤喜久子／出版：ミネルヴァ書房		

科目名	文化人類学 Cultural Anthropology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本をはじめとしたアジアさらには世界の文化を学ぶことを通じて、価値観の多様性を理解することを目指す。具体的には、学生が文化人類学の基礎知識を習得するとともに、世界の多様な文化を理解するために文化人類学が提出してきた文化に対する見方、考え方を理解し、それぞれの事例について文化人類学による見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に文化人類学という学問の特徴や文化の概念を学ぶ。次に文化（生活様式）のなかから婚姻、家族、出自、親族をとりあげて、それぞれについて文化人類学による見方を学ぶ。婚姻、家族、出自、親族のそれぞれについて文化人類学による概念を理解し、日本、韓国・朝鮮、中国（漢族）での具体例について学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだ文化、婚姻、家族、出自、親族などに関する文化人類学の基礎知識や文化人類学による見方を習得しているかを問う。		
授業計画	① 文化人類学について ② 文化について ③ 婚姻（1）婚姻の概念 ④ 婚姻（2）日本の場合 ⑤ 婚姻（3）韓国・朝鮮の場合、中国（漢族）の場合 ⑥ 父と母 ⑦ 家族（1）家族の概念 ⑧ 家族（2）日本の場合 ⑨ 家族（3）韓国・朝鮮の場合、中国（漢族）の場合 ⑩ 出自（1）出自の概念 ⑪ 出自（2）日本の場合 ⑫ 出自（3）韓国・朝鮮の場合、中国（漢族）の場合 ⑬ 親族（1）親族の概念 ⑭ 親族（2）日本の場合 ⑮ 親族（3）韓国・朝鮮の場合、中国（漢族）の場合 ⑯ 試験（記述式、持ち込み不可）		
予復習等	【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%（授業時数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『文化人類学入門』／著：祖父江孝男／出版：中央公論社		

科目名	日本文化論 Japanese Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本人特有のものの方や考え方を客観的にとらえ、私たちの思考の型とその背景に目を向けることで、自分自身の理解につなげることを目的とする。日本文化の根底にある日本人の精神性の魅力だけでなく改善点も学び、これをもとに普段の行動を少し変えてみることで、新しい自分を発見し、他者とのコミュニケーションの場において、自信をもって接することができるようになること、よりよい毎日を送れるようになることを到達目標とする。		
授業概要	本講義では、まず「日本文化の基礎知識」として日本人の感性と強い結びつきをもつ四季に対する姿勢を振り返るとともに、日本人の精神文化の代表的な特徴として挙げられる「もののあはれ」、「無常」、「義理と人情」、「粋」について、主に日本文学の立場から、私たちの思考の型を考えていく。「もののあはれ」については『源氏物語』、「無常」については主に『方丈記』および『徒然草』から、「義理と人情」では近松門左衛門の浄瑠璃作品、「粋」では九鬼周造『粋の構造』の考えを基本に近松作品を取り入れ、日本人の精神文化の魅力および改善点を考えていく。		
授業計画	① 授業についてのガイダンス、日本文化の基礎知識（1） ② 日本文化の基礎知識（2）、日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（1） ③ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（2）『源氏物語』の「もののあはれ」 ④ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（3）「もの」に対する姿勢、改善点 ⑤ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（1）「はかなさ」をめぐって ⑥ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（2）『方丈記』と『徒然草』の無常観 ⑦ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（3）無常観から茶の湯の精神へ ⑧ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（4）日本の「おもてなし」と「サービス」 ⑨ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（1）既存の知識における「義理と人情」 ⑩ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（2）浄瑠璃作品にみる「義理と人情」 ⑪ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（3）「義理と人情」の本質とは ⑫ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（4）「義理」と日本のマナー、改善点など ⑬ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（1）「粋」の三要素—九鬼周造『粋の構造』①— ⑭ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（2）「粋」の三要素—九鬼周造『粋の構造』②— ⑮ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（3）「粋」と「野暮」、身近にある「粋」 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと。 【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし。私語は厳禁とし、ほかにも授業にふさわしくない態度を慎んでほしい。		
教科書	テキストとしてプリントを配布する。		
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。		

科目名	民俗学 Folklore	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本やアジア各社会で見られる民俗宗教を学ぶことを通じて、各社会が伝えてきた精神世界を理解することを目指す。具体的には、学生が民俗宗教に関する基礎知識を習得するとともに、各社会が伝えてきた精神世界を理解するために民俗宗教研究が提出してきた見方、考え方を理解し、それぞれの事例について民俗宗教研究に基づく見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に民俗宗教の概念について学ぶ。次に民俗宗教のなかでも精霊の観念や精霊と人間とのかわり方が具体的に表現される精霊憑依の現象、シャーマン、シャーマニズムの概念について学ぶ。続いて日本の東北地方、奄美・沖縄地方、韓国などでのシャーマニズムの状況、およびシャーマニズムと成立宗教（仏教、キリスト教、儒教など）との関係について学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだ民俗宗教に関する知識や民俗宗教研究に基づく見方を習得しているかを問う。		
授業計画	① 民俗宗教について ② 精霊憑依について ③ シャーマン、シャーマニズムについて ④ 日本・東北地方のシャーマン（1） ⑤ 日本・東北地方のシャーマン（2） ⑥ 日本・東北地方のシャーマニズムと仏教 ⑦ 奄美・沖縄のシャーマニズム（1） ⑧ 奄美・沖縄のシャーマニズム（2） ⑨ 奄美・沖縄のシャーマニズムとキリスト教 ⑩ 奄美・沖縄のシャーマンと祭司（プリースト） ⑪ 韓国のシャーマン（1） ⑫ 韓国のシャーマン（2） ⑬ 韓国のシャーマニズムと儒教祭祀 ⑭ 台湾（漢族）のシャーマニズム ⑮ 整理とまとめ ⑯ 試験（記述式、持ち込み不可）		
予復習等	【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%（授業時数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『民俗宗教と救い』／著・池上良正／出版・淡交社		

科目名	アジア文化論 Asian Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	王 武雲	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、アジアにおける中国、日本、シンガポール、ベトナム、インドなどいくつかの国と地域を中心に、文化の特徴を概説する。異なる国の家族、社会及び文化を比較することによって、アジアの共通性や文化の特殊性を導き出して、学生諸君に異文化交流の大切さと難しさを理解してもらいことを目的とする。		
授業概要	アジアにおけるいくつかの国と地域を中心に、文化の特徴を概説する。まず、それぞれの国における家族を取り上げ、経済成長や社会発展に伴う家族変動の中で、家族形態や家族規範がどのように変化してきたか、また変化しつつあるかを明らかにする。次に中国における人口移動の現状と日本における外国人の文化受容を検討する。最後の3回授業でいくつかのグループに分けて、アジアの国々について調べて発表してもらう。グループ発表の準備と発表結果は授業評価の一部として考えてください。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① アジアの国々 ② データから見たアジアの家族形態の変化 ③ 日本の家族形態の変化 ④ ベトナムの社会変化と食文化 ⑤ インド文化の多様性 ⑥ シンガポールの家族形態の変化 ⑦ アジアにおける人の移動 ⑧ 中国の人口増加と日本の人口減少 ⑨ 中国人の海外進出 ⑩ 日本にいる外国人 ⑪ 日本における国際結婚 ⑫ 日本にいる留学生 ⑬ グループ発表 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、ネットとかで最新の情報を調べておくこと。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べたり、教員に聞いたりすること。		
評価方法	出席状況20%、レポート40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	特にテキストは使わない。授業中に資料などをプリントで配布する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	中国文化論 Chinese Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	王 武雲	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、授業計画で示すとおり、中国の少数民族、世界遺産、茶文化、大衆文化などの側面から中国を観察し、中国の文化に触れてもらう。日本と違って、中国が多民族国家、社会主義国家などの特徴を持っている。文化などの違いを理解し、グローバル化の進んである世界で共存していくことの大切さを理解することを目指す。		
授業概要	中国には漢民族以外に55の少数民族があり、それぞれの民族には独自の文化や習慣がある。中国における少数民族の社会や文化を考察しながら、中国社会の多様性を考察していく。理解を深めるため、ビデオなどの視覚教材を活用し、講義を進めて行く予定である。毎回感想文の提出を義務づける。感想文の内容を自主学習課題の成果と見なし、成績評価に反映させる。また、この授業は隔週開講の高大連携授業で、高校生と大学生の交流機会も設けているので、積極的に参加しよう。中国文化の理解を深めるため、外部特別教師を招いて、特別講義を行う予定である。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 中国って、どんな国？ ② 中国の民族（漢民族と少数民族） ③ 少数民族の独特な文化 ④ 中国の世界遺産 ⑤ 中国の茶文化 ⑥ 特別講義（外部の特別教師） ⑦ 中国の祝祭日（グループ発表） ⑧ 中国の食文化（グループ発表） ⑨ 定期試験 		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、ネットとかで最新の情報を調べておくこと。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べたり、教員に聞いたりすること。		
評価方法	出席状況20%、レポート40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	特にテキストは使わない。授業中に資料などをプリントで配布する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	韓国文化論 Korean Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>韓国の歴史について理解することを目的とする。具体的には、学生が朝鮮半島の歴史の基礎的知識を習得し、朝鮮半島での歴史の変遷、各時代の特徴、各時代の王朝と中国大陸や日本との関係が説明できるようになることを目標とする。隣国の歴史の理解が日本の理解につながることを期待される。</p>		
授業概要	<p>最初に朝鮮半島の地理の概要について学ぶ。次に、古代から近代まで朝鮮半島の各時代、各王朝の特徴を学ぶ。その際、中国大陸の各王朝や日本との関係を重視する。続いて、日本による植民地支配とその後の南北朝鮮の分断について学ぶ。この授業は隔週で行うので、授業が開講される日に注意すること。全8回であり、回数の少ない授業なので、予習復習に努めることが授業内容を理解するために大切である。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 地理 ② 古朝鮮と漢四郡 ③ 高句麗と三韓 ④ 統一新羅と渤海 ⑤ 高麗 ⑥ 朝鮮 ⑦ 大韓帝国と日韓併合 ⑧ 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国 ⑨ 定期試験（記述式、持ち込み不可） 		
予復習等	<p>【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。 【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理に努めること。</p>		
評価方法	レポート50%、定期試験50%（授業時数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『朝鮮を知る事典』／著・伊藤亜人他／出版・平凡社		

科目名	英米文化論 British and American culture	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	柳楽 有里	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>目的：アメリカの基本的な歴史と文化について理解し、世界におけるアメリカの位置付けがより明確に判断できるようになる。 到達目標1：植民地時代にアメリカ北部で繰り広げられた領土拡大問題を理解し、その主な原因と結果を説明することができる。 到達目標2：アメリカの移民の受け入れの過程を学び、それぞれの過程における問題点を説明できる。 到達目標3：アメリカにおけるマルチカルチャリズムを理解し、現代社会が抱える問題点と解決策を議論することができる。</p>		
授業概要	<p>英語圏の文化のうち主にアメリカに関する基本的な知識を学び、地理、歴史、政治、社会、信仰についての理解を深めることを目指す。地域研究の基盤として、この地域の過去と現状の正確な情報を幅広く得るために、テーマごとに講義を進める。アメリカのさまざまな側面を考察することによって、この地域が世界に与えた影響や他地域との関わりについても考える。授業では、アメリカに対してより深い関心を持って課題に取り組むことができるように、学生によるグループディスカッションとプレゼンテーションも取り入れる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション アメリカ文化について ② 地理と歴史（1）アメリカ植民地時代 ③ 地理と歴史（2）アメリカ植民地時代 ④ 信仰と生活（1）ビルグリム・ファーザーズ、魔女狩り ⑤ 地理と歴史（3）奴隷制とアメリカ南部 ⑥ 文化と芸術（1）黒人作家たちの台頭 ⑦ 政治と社会（1）西部開拓の夢 ⑧ 政治と社会（2）工業化と経済 ⑨ 政治と社会（3）アメリカにおける移民 ⑩ 政治と社会（4）アメリカにおける移民 ⑪ 政治と社会（5）犯罪・暴力・抑圧 ⑫ 文化と芸術（2）自然と文学 ⑬ 文化と芸術（3）ハイカルチャーとローカルチャー ⑭ 文化と思想（1）奴隷解放運動、禁酒法、フェミニズム運動 ⑮ 文化と思想（2）マルチカルチャリズム ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し専門用語の意味を調べておくこと。 【復習】 授業終了時に示す課題について次回の授業までにレポートを作成すること。</p>		
評価方法	授業中の課題25%、小レポート25%、定期試験50%として総合的に評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	ヨーロッパ文化論 European Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	小池 直人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ヨーロッパ文化の多様性と歴史の変遷を理解し、様々な言語や価値観を尊重しながら、積極的にコミュニケーションできる基礎教養を身に着けた人材、またそれに基づいて、社会や文化の創造に積極的に参加し、行動できる人材の育成をめざす。		
授業概要	近代日本は積極的にヨーロッパに学んで独自の社会、国家、文化をつくりあげてきた。ヨーロッパには古典古代やキリスト教、近代発展などにおいて文化的共通性があるとともに、複数の言語圏からなる文化の差異・複合性がある。この授業ではヨーロッパの複合性を歴史的な視点でとくにドイツや北欧諸国に焦点を当て考察する。そのさい文化概念を広い意味で理解し、文芸作品だけでなく、社会や政治、宗教、哲学などにもふれ、全体としてヨーロッパ文化の本質にアプローチする。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② ヨーロッパ文化と日本 ③ 風土と歴史 ④ 古典文化の人間観 ⑤ 北方の古代文化 ⑥ キリスト教と「愛」の思想 ⑦ ルネサンス以後の近代文化 ⑧ 近代人の運命とゲーテ ⑨ 市民の時代と文芸の公共性 ⑩ アンデルセンと社会問題 ⑪ ホイスコーレと農民文化 ⑫ 神なき時代と資本主義 ⑬ 労働者の文化生活と福祉国家 ⑭ イブセンとフェミニズム ⑮ [仕合せ]を考える ⑯ 筆記試験 		
予復習等	【予習】 授業の内容に関連する事項を調べること 【復習】		
評価方法	授業のなかで課したレポート40%、試験60%		
履修条件	英語圏以外のヨーロッパ文化圏にも関心をもつこと。授業では数度課題を出すので、それを必ず提出すること		
教科書	とくにない。授業はプリントを配布して行う。		
参考書	授業のなかで、その都度紹介する。		

科目名	文化交流論 Cultural Interaction	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）【開放科目】	科目区分	講義
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本をはじめアジア各地の文化に大きな影響を与えている仏教について理解することを目指す。具体的には、学生が仏教の基礎知識を習得し、仏教の内容について説明できるようになることを目標とする。さらには、仏教の基礎知識を習得することによって日本やアジアの文化に対する理解力を深めることが期待される。		
授業概要	仏教に関する基礎知識を学ぶとともに、文化交流を文化の接触ととらえ、インドで発生した仏教がインド在来の文化からどのような影響を受けたか、また、中国に伝来した仏教がどのように展開したかについても学ぶ。はじめに、仏教が生まれる以前からインドで実践されていたバラモン教について学ぶ。次に、釈迦の生涯、釈迦が説いた教え、釈迦以後に発生した大乘仏教について学ぶ。続いて、中国における仏教の展開として禅、天台教学、華嚴教学についてとりあげ、また仏教と儒教との関係についても学ぶ。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 仏教とは ② バラモン教、ウパニシャッド哲学 ③ 釈迦の生涯 ④ 釈迦の悟りの内容 ⑤ 釈迦の説いた教え ⑥ 苦しみの由来 ⑦ 修行について ⑧ 仏教とバラモン教：輪廻転生と仏教 ⑨ 多くの仏陀、空 ⑩ 唯識、如来像、六波羅蜜 ⑪ 中国での禅の形成 ⑫ 中国での禅の展開 ⑬ 天台教学、華嚴教学 ⑭ 浄土信仰、仏教と儒教 ⑮ 整理とまとめ ⑯ 定期試験（記述式、持ち込み不可） 		
予復習等	【予習】 指定された参考書をよく読んでおくこと。 【復習】 レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%（授業時数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	『仏教入門』／著・高崎直道／出版・東京大学出版会		

科目名	日本文学論 Japanese Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）【開放科目】	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>上代・中古・中世・近世・近代各時代の日本文学の代表作品に関する基礎的な知識を身につけ、作品に込められた心を理解し、それを他者に説明できるようになることを目的とする。各文学作品の時代背景および、そこに反映された人間のさまざまな感情やそれに基づく行動に目を向けることで、自分の内面に照らし合わせつつ他者の心を理解することにつなげ、実生活をよりよいものにして生きる方法を自分なりに考えられるようになることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>本講義は、上代・中古・中世・近世・近代の各時代の日本文学作品の中から、学生の皆さんに基本的な教養として知っておいてもらいたいものを厳選して取り上げ、その世界に反映された人間のさまざまな心の側面を認識するという目的で構成されている。「難しい」という印象を抱かれがちな日本文学の世界だが、まずは身構えずにその世界を味わってみることで作品に興味を持ち、書店などで気になる作品を手にとってくれる若者が増えることを希望的目標とする。文学作品世界への認識を深め、人の心の動きについて考えることで、実生活において自己も他者も活かせる生き方を見出すきっかけにしてもらえるよう講義を進める。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業についてのガイダンス、日本最古の和歌集『万葉集』概説 ② 『万葉集』から、和歌とは何かを考える―「自分のことば」の獲得との関連から― ③ 和歌から物語へ（1）物語文学の流れ―作り物語、歌物語― ④ 和歌から物語へ（2）物語文学の流れ―日記文学、『源氏物語』へ― ⑤ 『源氏物語』概説、登場人物の紹介（1）第一部・第二部 ⑥ 登場人物の紹介（2）第三部、『源氏物語』の世界を味わう（1）映像を用いて ⑦ 『源氏物語』の世界を味わう（2）映像を用いて ⑧ 『新古今和歌集』の意義とは―その時代背景から― ⑨ 『新古今和歌集』の表現技巧、『徒然草』の姿勢―先行随筆文学との比較から― ⑩ 『徒然草』の視点の特徴―思考の柔軟性、末尾の七章について― ⑪ 井原西鶴―俳諧から浮世草子に至る笑いの追求― ⑫ 近松門左衛門―人形浄瑠璃と歌舞伎の脚本家― ⑬ 夏目漱石（1）初期作品の特徴、作品テーマの変化 ⑭ 夏目漱石（2）近代人の苦悩、谷崎潤一郎（1）初期作品における女性崇拜 ⑮ 谷崎潤一郎（2）女性崇拜―耽美主義と日本伝統美の融合から― ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと。 【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直しておくこと。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし。私語は厳禁とし、ほかにも授業にふさわしくない態度を慎んでほしい。		
教科書	テキストとしてプリントを配布する。		
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。		

科目名	比較文学論 Comparative Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>唐の玄宗の妃である楊貴妃の物語を扱った、日本の古典文学作品『唐物語』の内容を味わい、そのもととなった中国の古典文学作品の内容と比較することで、何が書かれているか、どのような情報が取り入れられているか（逆に、どのような情報が取り入れられていないか）、またその理由などを理解し、論理的な思考が組み立てられるようになることを目的とする。そこから、実生活において私たちに与えられる多くの情報に対しどのように向き合うべきかを自分なりに判断し、決断できる人となることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>本講義は、日本古典文学作品の特質を、これに影響を与えた中国古典文学作品との比較から読み解いていくものである。中国の故事（お話）を日本語に翻訳した物語集『唐物語』（12世紀後半成立）に収められた「玄宗皇帝と楊貴妃の語（こと）」をゆっくり購読しながら、そのもととなった中国古典文学作品『長恨歌』・『長恨歌伝』、『楊太真外伝』に描かれた楊貴妃像を比較・分析する。そして「なぜそのような表現となっているのか」を各作者の意図や時代背景などから考える。物語を丁寧に味わいながら読み進めるとともに、内容の理解を助けるため、楊貴妃の人生を描いた映像として、現代の中国ドラマも取り入れる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業についてのガイダンス、『唐物語』概要、楊貴妃および唐の都・長安について ② 『唐物語』購読（1）楊氏の娘・玉環、玄宗の後宮に召される ③ 楊貴妃の魅力についての比較（1）『長恨歌伝』における描かれ方 ④ 楊貴妃の魅力についての比較（2）『長恨歌伝』の意図 ⑤ 『唐物語』購読（2）玄宗の楊貴妃寵愛、世間からの羨望 ⑥ 楊貴妃の政治性についての比較（1）『長恨歌伝』における描かれ方・意図 ⑦ 楊貴妃の政治性についての比較（2）『楊太真外伝』における描かれ方・意図 ⑧ 楊貴妃の政治性についての比較（3）『唐物語』の意図、全体のまとめ ⑨ 『唐物語』購読（3）寵愛の危機―玉の笛の事件― ⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較（1）『楊太真外伝』における描かれ方 ⑪ 楊貴妃の奔放さについての比較（2）『楊太真外伝』の意図 ⑫ 『唐物語』購読（4）長生殿での永遠の愛の誓い ⑬ 『唐物語』購読（5）安祿山の乱起こる、逃避行、楊貴妃殺害 ⑭ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（1） ⑮ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（2） ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと。 【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直しておくこと。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度40%、授業時に書いてもらうメモ20%、定期試験40%		
履修条件	なし。私語は厳禁とし、ほかにも授業にふさわしくない態度を慎んでほしい。		
教科書	テキストとしてプリントを配布する。		
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。		

科目名	国際関係論 International Relations	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は国際関係の基本的な理論（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム）とウェストファリア体制から冷戦後までの国際関係の歴史を学ぶことである。到達目標としては、ウェストファリア体制から冷戦後の世界までの国際社会の在り方を国際関係の基本的な理論に基づいて理解し、説明ができるようになることである。		
授業概要	本講義では、主として国際関係を考察する上での基本的な理論的視座（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム）の理解と、国際関係の歴史の検討を行う。国際関係の歴史では、国際社会の基本的な枠組み（主権国家体制）が成立したウェストファリア体制から、ウィーン体制、第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦、及び今日の世界情勢までの検討を行う。最終的に国際関係の理論に基づいて国際社会の歴史を検討する視座を養う。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② 国際関係の見方（1）リアリズム ③ 国際関係の見方（2）リベラリズム ④ 国際関係の見方（3）コンストラクティビズム ⑤ ウェストファリア体制と主権国家の誕生 ⑥ ナショナリズムと帝国主義 ⑦ 第一次世界大戦 ⑧ 国際連盟の成立 ⑨ 第二次世界大戦 ⑩ 国際連合の成立 ⑪ 冷戦 ⑫ 地域主義の挑戦（1）EU ⑬ 地域主義の挑戦（2）ASEAN ⑭ 冷戦後の国際問題 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】講義内で紹介する参考書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。		

科目名	国際協力論 International Cooperation	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は、国際社会による国際協力の在り方を、開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの側面から学ぶことである。到達目標としては、途上国の貧困問題、基本的人権の抑圧、地球温暖化、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援の4つの側面において、今日の国際協力の課題について十分に理解し、説明できることである。		
授業概要	現代国際社会では、地球規模で取り組むべき課題が数多くある。中でも、途上国の貧困問題（南北問題と政府開発援助の可能性）、途上国における基本的人権の抑圧（第二次大戦後の国際人権レジームの形成）、地球温暖化に代表される地球環境問題（二酸化炭素排出削減への取り組み等）、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援（国連平和維持活動等）である。それゆえ、本講義では開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 貧困問題と開発援助（南北問題） ③ 貧困問題と開発援助（政府開発援助） ④ 貧困問題と開発援助（日本のODA） ⑤ 貧困問題と開発援助（ODAの展望） ⑥ 人権問題と国際協力（戦後の人権保護） ⑦ 人権問題と国際協力（冷戦期における人権保護） ⑧ 人権問題と国際協力（冷戦後における人権保護） ⑨ 地球環境問題と国際協力（地球環境問題とは） ⑩ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム1） ⑪ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム2） ⑫ 平和構築の国際協力（平和維持） ⑬ 平和構築の国際協力（平和構築） ⑭ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力） ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】講義内で紹介する参考書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	『国際協力—その新しい潮流』／著：下村恭民／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。		

科目名	異文化コミュニケーション Cross-Cultural Communication	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	柳楽 有里	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>目的：異文化に対する理解を深めることにより、異文化間で起こる問題に対して解決策を議論できるようになる。</p> <p>到達目標1：異文化理解に関連する専門用語を説明することができる。</p> <p>到達目標2：異文化間で生じる摩擦を身近な例を用いて説明することができる。</p> <p>到達目標3：多民族社会における問題点を理解し、その問題に対する解決策を提示することができる。</p>		
授業概要	<p>今日のグローバル社会において異文化間のコミュニケーション力を高めることが重要である。本講義では異文化に対する理解を深めるとともに、様々な活動を通して異文化コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。具体的には異文化コミュニケーションに関する基礎知識と専門用語を学習し、多民族社会が抱える問題解決のための方法を議論する。授業では異文化理解に対してより深い関心を持って取り組むことができるように、講義だけではなく、学生によるグループディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① イントロダクション ② 文化とは（文化を定義してみよう） ③ 異文化適応 ④ 文化の違い ⑤ 異文化への認識 ⑥ 異文化体験 ⑦ 差別問題 ⑧ マルチカルチャリズム ⑨ 世界の価値観 ⑩ 非言語コミュニケーション ⑪ 言語コミュニケーション ① ⑫ 言語コミュニケーション ② ⑬ 言語コミュニケーション ③ ⑭ アサーティブ・コミュニケーション ⑮ アメリカ社会と差別 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。</p> <p>【復習】授業終了時に示す課題について次回の授業までにレポートを作成すること。</p>		
評価方法	授業中の課題25%、小レポート25%、定期試験50%として総合的に評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	情報社会論 Information Society	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	講義
担当者	木村 充位	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>情報社会におけるさまざまな現状や特徴を学び、そこで起きている問題やその現状の解決策を学び、学生自らもその解決策について考えて、情報社会とどのように付き合っていくべきなのか学ぶことを目的とする。専門教育科目の「情報・言語コミュニケーション科目」の分野で「情報社会論」を学ぶことによって、学生自らが情報社会の中での行動を見直すことによって、情報社会のトラブルに巻き込まれないようにするためには、どのような行動をすればよいのかを考えて行動できるようになることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>情報技術の著しい進展に伴い、現代社会の生活形態は大きく変化してきている。それは現代の社会システムにおいて、光と影の部分を作り出した。その光の部分とは何か？影の部分とは何か？を具体例を挙げながら解説する。また、私たちのメディアのつきあい方や人間関係のあり方はどうあるべきかを考える。授業では視聴覚教材や近年の新聞記事を用いて、具体的な事例を見ながら現代の社会システムがどのように情報化されているのか、情報化により現代起きている問題点を整理していく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 情報社会について ② 情報化社会の特徴（1）-情報社会の変遷 ③ 情報化社会の特徴（2）-マルチメディア化 ④ 暮らしの中の情報化 ⑤ 情報社会の光 -電子商取引の仕組み ⑥ 情報社会の影 -マルチメディア化の問題 ⑦ 情報化による家庭生活の変化 ⑧ 情報利用の向上 -ブロードバンド ⑨ 情報利用向上の要因（1）-ブロードバンド化の現状 ⑩ 情報利用向上の要因（2）-ブロードバンド化の要因 ⑪ 在宅勤務と遠隔教育 ⑫ テレマーケティングの現状 ⑬ 企業・産業の情報化 -販売管理のコンピュータ化 ⑭ 情報倫理（1）-ネットの有害情報とは ⑮ 情報倫理（2）-有害情報の規制 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】各テーマについて、新聞・本などで調べておく。</p> <p>【復習】配布資料を読み、板書した内容をまとめ直して、理解を深める。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、レポート30%、定期試験50%		
履修条件	なし。私語は厳禁とする。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	英会話 I	単位数	1
	English Conversation I	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	荒木 隆人	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義の目的は、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として、日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることをねらいとする。到達目標としては、英会話の様々な場面で頻出する基本的な表現の読み、聞き、話し、書くことができることである。</p>		
授業概要	<p>本授業では英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは、海外旅行の際に遭遇する会話の様々な場面を取り扱った『Fly across the Borders—本当に使えるトラベル総合英語』を使用する。上記のテキストでの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん、英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを旨とする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② Prologue (1) ③ Prologue(2) ④ On an Airplane(1) ⑤ On an Airplane(2) ⑥ Landing at Honolulu Airport(1) ⑦ Landing at Honolulu Airport(2) ⑧ Transit at Honolulu Airport(1) ⑨ Transit at Honolulu Airport(2) ⑩ Exchange Money(1) ⑪ Exchange Money(2) ⑫ Transportation(1) ⑬ Transportation(2) ⑭ Hotel (1) ⑮ Hotel (2) ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの授業範囲の問題を解いておくこと 【復習】 授業後に、テキストの聞き取り問題、読解問題を復習すること</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『Fly across the Borders—本当に使えるトラベル総合英語』／著：三日月雅子／出版：松柏社		
参考書	英語辞書(紙のものが望ましい)		

科目名	英会話 II	単位数	1
	English Conversation II	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	荒木 隆人	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本授業の目的は、前期に引き続き、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として、日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることをねらいとする。到達目標としては、英会話の様々な場面で頻出する基本的な表現を読み、聞き、話し、書くことができることである。</p>		
授業概要	<p>本授業では英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは、前期に引き続き、『Fly across the Borders—本当に使えるトラベル総合英語』を使用する。上記のテキストでの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん、英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを旨とする。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Staying at Hotel(1) ② Staying at Hotel(2) ③ Sightseeing (1) ④ Sightseeing (2) ⑤ Directions through Towns(1) ⑥ Directions through Towns(2) ⑦ Food and Drink(1) ⑧ Food and Drink(2) ⑨ At the Restaurant (1) ⑩ At the Restaurant (2) ⑪ Shopping(1) ⑫ Shopping(2) ⑬ Hotel(1) ⑭ Hotel(2) ⑮ Going Back Home(1) ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 指定されたテキストの授業範囲の問題を解いておくこと 【復習】 授業後に、テキストの聞き取り問題、読解問題を復習すること</p>		
評価方法	出席状況・授業態度20%、対話発表10%、小テスト20%、定期試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『Fly across the Borders—本当に使えるトラベル総合英語』／著：三日月雅子／出版：松柏社		
参考書	英語辞書(紙のものが望ましい)		

科目名	英会話Ⅲ	単位数	1
	English Conversation III	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	柳楽 有里	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>目的：豊かな英語表現を身につけ、それらを用いて自分の意見を分かりやすく伝えるスキルを培うことを目的とする。</p> <p>到達目標1：スピーチの暗唱とシャドーイングを通して、流暢な英語を話すことができる。</p> <p>到達目標2：英語で行われる会話を聞き、主な内容を理解することができる。さらにその内容を英語で説明することができる。</p> <p>到達目標3：学習した表現を用いて自分の意見を伝えることができる。</p>		
授業概要	<p>実用的な英語表現を映像とスクリプトを用いた活動を通して学習し総合的な英語力を培う。視聴覚教材に関連する文法事項と語彙を丁寧に確認することによって英語の基礎力を充実させる。また、内容理解だけでなく、定型表現の使い方を確認し、スクリプトで確認した内容の要約も行う。さらに、教材で扱われているリスニングとその内容に関連する教材を用いてスピーキングの練習を行い、多様な英語表現の理解するだけでなく、学習した内容をアウトプットすることで英語力を向上させる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② Unit 1 A Burger for a Fine Dining ③ Unit 2 Hold me? ④ Unit 3 Spies are Everywhere ⑤ Unit 4 Making Peace Through Music ⑥ Unit 5 Glaciers Come, Glaciers Go ⑦ Unit 6 Picking Up Language in the Womb ⑧ Unit 7 The End of Space Travel? ⑨ Unit 8 A Talent Blossoms ⑩ Unit 9 Robots for Everyday Use ⑪ Unit 10 Video Games as a Career ⑫ Unit 11 How the Internet Began ⑬ Unit 12 Social Networking and Productivity ⑭ Unit 13 The Large Hadron Collider ⑮ Unit 14 Encouraging More Microfinance ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲のニュースを見て、わからない単語を調べ、定型表現を暗唱しておくこと。</p> <p>【復習】 小テストを行うので学習した単語と定型表現を復習しておくこと。</p>		
評価方法	授業内課題30%、小テスト20%、定期試験50%として総合的に評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	VOA News Clip Collection ISBN9784791910229		
参考書	なし。		

科目名	英会話Ⅳ	単位数	1
	English Conversation IV	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	柳楽 有里	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>目的：豊かな英語表現を身につけ、それらを用いて自分の意見を分かりやすく伝えるスキルを培うことを目的とする。</p> <p>到達目標1：スピーチの暗唱とシャドーイングを通して、流暢な英語を話すことができる。</p> <p>到達目標2：英語で行われる会話を聞き、主な内容を理解することができる。さらにその内容を英語で説明することができる。</p> <p>到達目標3：学習した表現を用いて自分の意見を伝えることができる。</p>		
授業概要	<p>実用的な英語表現を映像とスクリプトを用いた活動を通して学習し総合的な英語力を培う。視聴覚教材に関連する文法事項と語彙を丁寧に確認することによって英語の基礎力を充実させる。また、内容理解だけでなく、定型表現の使い方を確認し、スクリプトで確認した内容の要約も行う。さらに、教材で扱われているリスニングとその内容に関連する教材を用いてスピーキングの練習を行い、多様な英語表現の理解するだけでなく、学習した内容をアウトプットすることで英語力を向上させる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① インTRODクシヨン ② Unit 1 Kimuchi in Space ③ Unit 2 Is Ginkgo Biloba Effective? ④ Unit 3 Our Best Friends Understand Us! ⑤ Unit 4 Gaming Online ⑥ Unit 5 Overtaken by China ⑦ Unit 6 More Salt with Your Vegetables? ⑧ Unit 7 Homes for the Homelss ⑨ Unit 8 Care for an Exoskeleton? ⑩ Unit 9 Health on the Go ⑪ Unit 10 E-books Rising ⑫ Unit 11 Health in the Forest ⑬ Unit 12 Gravity-defying Skateboards ⑭ Unit 13 Living Your High-tech Dreams ⑮ Unit 14 Onward to Jupiter ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を単語を調べ、定型表現を暗唱しておくこと。</p> <p>【復習】 小テストを行うので学習した単語と定型表現を復習しておくこと。</p>		
評価方法	授業内課題30%、小テスト20%、定期試験50%として総合的に評価する。		
履修条件	なし。		
教科書	VOA News Plus ISBN9784791947942		
参考書	なし。		

科目名	海外言語・文化演習 Language and Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1・2年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	海外言語・文化演習（英語圏）（中国語圏）（韓国）を通して、習得した英語や中国語や韓国語の能力を高めて、違う国の文化・習慣などに直接触れることによって、学生の視野を広げることを目指す。		
授業概要	海外言語・文化演習では、海外の研修校においてネイティブ・スピーカーの現地教員による言語及び文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも用意してある。海外滞在時間は8日～10日前後。帰国後、研修成果として課題提出が義務にする。		
授業計画	① 出発前オリエンテーションの実施（3回） ② 現地研修校における語学・文化研修 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	【予習】研修先の国や、大学について調べておく。		
評価方法	現地研修の参加50%、課題提出50%による総合評価。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書			

科目名	初級中国語 I Basic Chinese I	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	王 武雲	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	外国語の学習は、単に情報獲得の道具を得るためだけでなく、その言語の背景にある人々の文化の理解も重要である。従って本授業は中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけて、中国の文化や習慣に触れながら、中国語の発音や文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかり練習して、中国語の発音に慣れるように頑張ってもらいたい。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部と考えてください。間違いを恐れず積極的に授業に参加しよう。		
授業計画	① 単母音、複合母音、 ② 子音、声調 ③ 変調の規則 ④ 第1課 お名前は？ ⑤ 第2課 これは私のパソコンです。 ⑥ 第3課 ここは寒いです。 ⑦ 第4課 7時に起きます。 ⑧ 第5課 学校まで遠いです。 ⑨ 第6課 何かがありますか。 ⑩ 第7課 お幾つですか。 ⑪ 第8課 図書館で勉強します。 ⑫ 第9課 どこへ行きましたか。 ⑬ 第10課 パンを食べたいです。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』 郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参考書	授業中随時紹介する		

科目名	初級中国語Ⅱ Basic ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	王 武雲	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	外国語の学習は、単に情報獲得の道具を得るためでなく、その言語の背景にある人々の文化の理解も重要である。従って本授業は中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけて、中国の文化や習慣に触れながら、簡単な会話ができることを目指す。前期で学習した中国語の基礎の上に、中国語の基本的な表現力を向上させる。後期は読解に重きを置いて進めていくが、文法や文型を理解したうえで、初級レベルの中国語短文を読むことができるようになることを目指す。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部と考えてください。前期と同じように、中国語の発表会を予定する。間違いを恐れず積極的に授業に参加しよう		
授業計画	① 前期の復習 ② 第11課 母より背が高いです。 ③ 第12課 中国へ行ったことがあります。 ④ 第13課 手紙を書いています。 ⑤ 第14課 いつ来たのですか。 ⑥ 第15課 英語ができます。 ⑦ 第16課 15課を学び終わりました。 ⑧ 第17課 母が送ってくれました。 ⑨ 第18課 中国語が聞いて分かります。 ⑩ 第19課 走るのが速いです。 ⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています。 ⑫ 第21課 本をたくさん読んでください。 ⑬ 第22課 中国へ帰ります。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業で随時紹介する		

科目名	中級中国語Ⅰ Intermediate ChineseⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	邢 桂芝	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が既に習得している中国語の知識を生かして、中国の言葉と文化を題材とした各課本文を学ぶ。「読む」「聞く」「話す」「書く」の訓練を受けて、中級レベルの長文の内容を理解、活用することができるようになることを目的とする。また、中国文化に関する知識を覚えることによって、国際コミュニケーションに役に立つ表現を身につけ、中検3級レベルに到達することを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：国際旅行業務、ビジネス通訳、製造業の現場通訳。今でも国際コミュニケーション活動にしばしば参加している大学の中国語ネイティブ講師。】 前期は教科書の第1課～第6課を勉強する。進度は2回一課のペースで授業を進めていく。まず、各本文を朗読し、新出単語を覚え、文法ポイントを理解する。そして、本文の内容を理解し、問答練習をする。また、本文の内容と文法を活用して実用会話や応用練習をする。最後、確認小テストや口頭発表を実施する。本文の内容に合わせて、中国文化に関する映像を見たり、中国語の歌を聞いたりして、楽しく学ぼう。		
授業計画	① ガイダンス ② 第一課 首都北京、ポイント1 ③ 応用練習、小テスト ④ 第二課 民族と気候 ポイント2 ⑤ 応用練習、小テスト ⑥ 第三課 人口 ポイント3 ⑦ 応用練習、小テスト ⑧ 第四課 方言 ポイント4 ⑨ 応用練習、小テスト ⑩ 第五課 泰山 ポイント5 ⑪ 応用練習、小テスト ⑫ 第六課 祝祭日 ポイント6 ⑬ 応用練習、小テスト ⑭ 中国語の歌 ⑮ 期末復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】講義を受ける前に、分からない単語やフレーズを調べる。本文について豆知識（小知識）を読むこと。毎回1時間準備学習すること。 【復習】前回の講義内容を2時間復習して、次回の講義を受けること。		
評価方法	10回以上の出席が評価の前提となる。出席状況20%、小テスト30%、定期試験50%による総合評価する。		
履修条件	なし		
教科書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（講読編）』郁文堂 著者：王武雲、張慧娟、朱藝（2600円＋税）		
参考書	中日辞書、日中辞書		

科目名	中級中国語Ⅱ Intermediate ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	劉 欣	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語を題材とした各本文を勉強して、正確できれいな中国語の発音を覚え、中国語の読み、聞く、話す、書くなどの技能を学び、中級レベル以上の中国語能力を身につける。音声、映像などを利用して、できるだけ多くの現代中国を知り、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。本講座は、学生が本文で学習した語彙、文法の要点、いろいろな場面の表現を中国語で聞いて理解できる、自分で使える、ことを目指すものとする。		
授業概要	授業では、単語、本文の正しい読み方すなわち発音の確認と、基本的文法の学習、あわせて実際の場面を想定した説明、例文の提示、練習を行う。また、勉強する中で学生が本文中の主な文法を理解するだけでなく、今まで習った単語と組み合わせて応用できる力を養うことも目指す。外国語教育の観点からは、学生が中国語学習を通して、その表現、言い方の日本語との違いを考察し、言語表現に表れる文化的特徴にも学生の興味を促すことも目指す。		
授業計画	① 前期の内容の復習 ② 第七課 飲食文化 ③ 練習 ④ 第八課 薬膳 ⑤ 練習 ⑥ 第九課 体育健身運動 ⑦ 練習 ⑧ 第十課 動物 ⑨ 練習 ⑩ 第十一課 旗袍 ⑪ 練習 ⑫ 第十二課 大学 ⑬ 練習 ⑭ 中国語の歌 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	前回の授業で指定した教科書の内容を事前に読んでおくこと。次回の教科書範囲を予習し、新出単語、新出語句、慣用表現、構文を調べておくこと。		
評価方法	出席状況30%、小テスト20%、試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	応用中国語Ⅰ Practical ChineseⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語検定資格（HSK）を取得するための授業です。主にHSK資格3級、4級の取得をサポートします。中国語の基本発音、基礎知識を身につけることができるだけでなく、受講者のレベルに応じ、聞き取り・読解・作文の3つの技能を訓練する。また、過去問題の出題パターンと傾向に基づき、有効な対策を講じて、学習効率を高める。更に、学生たちが中国語に対して、興味・関心を持ち、学習の意欲を持つように促す。		
授業概要	本授業は、聞き取りの練習、語彙表現の復習など、リスニングと筆記の過去問題を解いてもらいながら進めていくことにする。しかも、過去問題の分析、既出語彙、文型のまとめ、練習問題および模擬試験、作文を練習する。受講生のニーズに合わせて、読む練習、文法の説明、聴く練習を通して、受講生の中国語のレベルを高める。		
授業計画	① ガイダンス 授業の内容、進み方、評価方法 ② 中国語検定試験4級の文法1：例文で説明し、穴埋めの問題タイプを練習する。 ③ 中国語検定試験4級の文法2：例文で説明し、語順並べ替え問題タイプを練習する。 ④ 中国語検定試験4級の文法3：例文で説明し、和訳問題タイプを練習する。 ⑤ 中国語検定試験4級の語彙：正しいピンイン表記を練習する。 ⑥ 中国語検定試験4級のリスニング1：単音節単語と二音節単語のピンイン表記を練習する。 ⑦ 中国語検定試験4級のリスニング2：日本語の語彙を中国語で言い表すのを練習する。 ⑧ 中国語検定試験4級のリスニング3：日本語の数字、時間を中国語での表現を練習する。 ⑨ 中国語検定試験4級のリスニング4：単文を中国語で言い表すのを練習する。 ⑩ 中国語検定試験4級のチャレンジ：過去試験問題で模擬試験を実施する。 ⑪ 中国語ミニ発表1テーマ（私のストーリー）全員発表 ⑫ 中国語検定試験3級の文法：例文で中国語の比較、連動、補語などを復習する。 ⑬ 中国語検定試験3級の語彙：二音節語彙を音読み、ピンイン表記の確認練習する。 ⑭ 中国語検定試験3級の読解：文章を読み、筆記問題を練習する。 ⑮ 中国語ミニ発表2テーマ（スケジュール表）全員発表 ⑯ 定期試験		
予復習等	授業前は予習し、授業後に復習することを少なくとも1時間程度に行うこと。		
評価方法	授業への参加状況、授業の態度20%、小テスト40%、期末試験40%による総合に評価する。		
履修条件	なし		
教科書	毎回学習資料を配る。		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	応用中国語Ⅱ Practical ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	劉 欣	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語使って何かを表現したい、最も中国の文化なことなどに触れたい、中国語検定を受けてみたい学生を対象に、中国語検定試験の最近の問題を資料として使用する。今まで説明を聞いてもあまり理解できなかった問題を解けることによって、基礎中国語、中国語の応用力の向上を図る。既習の中国語力を生かして、中国語検定試験合格に臨むことを主要な到達目標とした授業構成のクラスとする。		
授業概要	中国語検定受験目標を志す学生を対象に、今までの検定試験の傾向とその対策を最新の試験問題の演習、説明、復習などを徹底して繰り返すことにより、試験のパターに慣れること、今まで解けなかった問題をより分かり易く、丁寧に解説する。出やすい問題を確実に点数に結び付けられるよう、検定試験合格により照準を合わせた授業内容を目指す。必然的に中国語の基礎力、ヒヤリング力などの総合応用力の向上が期待される。		
授業計画	① 前期内容の復習 ② 中検対策三級文法と練習問題 ③ 三級筆記問題 ④ 同上 ⑤ 同上 ⑥ 同上 ⑦ 同上 ⑧ 同上 ⑨ 三級リスニング問題 ⑩ 同上 ⑪ 同上 ⑫ 同上 ⑬ 同上 ⑭ 総合復習 ⑮ 総合復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	前回の授業で指定したプリントの内容を事前に読んでおくこと。次回の授業のプリントの内容を予習し、練習内容を調べておくこと。		
評価方法	出席状況30%、小テスト20%、試験50%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	初級中国語会話Ⅰ Basic Chinese ConversationⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語の基本発音、中国語に関する基礎知識を身につけることができるだけでなく、簡単な挨拶と簡単な中国語の会話や簡単な中国語の文章もできるようになる。中国語での挨拶や自己紹介、買い物など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につける。そして、日本とは異なる習慣に触れたりすることにより、中国への関心と理解を深めて、中国文化および中国事情などの基本知識も覚える。		
授業概要	本授業は、正しい発音で簡単な日常会話ができることを目標とする。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う。具体的に、文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。1回1課のペースで進めていく予定である。簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通して学習内容を定着させる、しかも視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。		
授業計画	① ガイダンス ② 母音、声調 ③ 子音 ④ ピンインの復習 ⑤ 第1課 我是学生。 ⑥ 第2課 今天天气真热! ⑦ 第3課 今天星期几? ⑧ 第4課 你现在在哪儿? ⑨ 第5課 午饭你想吃什么? ⑩ 第6課 你昨天买了什么? ⑪ 第7課 你今年多大? ⑫ 第8課 你家离学校远不远? ⑬ 第9課 你在干什么呢? ⑭ 第10課 这是谁做的蛋糕? ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	授業前は単語、文法、本文を予習し、授業後に習った内容を復習することを少なくとも1時間程度に行うこと。		
評価方法	授業への参加状況、授業の態度20%、小テスト40%、期末試験40%による総合評価。		
履修条件	なし		
教科書	『1・2・3中国語』郁文堂出版社。著者：王武雲、朱藝、林愛華、李德林（2,500円＋税）		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	初級中国語会話Ⅱ	単位数	1
	Basic Chinese Conversation II	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語の基本発音、中国語に関する基礎知識を身につけることができるだけでなく、簡単な挨拶と簡単な中国語の会話や簡単な中国語の文章もできるようになる。中国語での挨拶や自己紹介、買い物など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につける。そして、日本とは異なる習慣に触れたりすることにより、中国への関心と理解を深めて、中国文化および中国事情などの基本知識も覚える。		
授業概要	本授業は、正しい発音で簡単な日常会話ができることを目標とする。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う。具体的に、文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。1回1課のペースで進めていく予定である。簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通して学習内容を定着させる、しかも視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 前期の復習 ② 第10課 这是谁做的蛋糕？ ③ 第11課 你会打网球吗？ ④ 第12課 快要放暑假了。 ⑤ 第13課 尝尝我包的饺子吧。 ⑥ 第14課 他们今天来干什么？ ⑦ 第15課 哪位老师教你们英语？ ⑧ 復習 ⑨ 第16課 周末我们去旅游吧。 ⑩ 第17課 天气越来越暖和了。 ⑪ 第18課 昨天被雨淋了，头疼。 ⑫ 第19課 我一看小说就困。 ⑬ 第20課 那我再说一遍吧。 ⑭ 第21課 如果周末是晴天，去爬山吧。 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	授業前は単語、文法、本文を予習し、授業後に習った内容を復習することを少なくとも1時間程度に行うこと。		
評価方法	授業への参加状況、授業の態度20%、小テスト40%、期末試験40%による総合評価。		
履修条件	なし		
教科書	『1・2・3中国語』郁文堂出版社。著者：王武雲、朱藝、林愛華、李徳林（2,500円＋税）		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	中級中国語会話Ⅰ	単位数	1
	Intermediate Chinese Conversation I	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	王 武雲／邢 桂芝	教員区分	学内教員／非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業は、1年生で習った中国語の発音、基礎文法知識を高めて、簡単な会話とヒヤリング能力を身につけることを目指す。引き続き声調や発音を練習し、単語や短文を正しく、自由に発音できるように頑張ってもらいたい。また、簡単な会話を繰り返し練習し、聞いて理解できることと会話ができることを目指す。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部と考えてください。教科書の内容以外に中国語で会話を作ったり、発表したりして、練習する予定である。中国語の歌も挑戦してもらおう。間違いを恐れず積極的に授業に参加しよう。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 発音の復習（第1課～第3課） ② 第4課 你贵姓？ ③ 文法と練習 ④ 第5課 你去哪儿？ ⑤ 文法と練習 ⑥ 第6課 我想喝普洱茶。 ⑦ 文法と練習 ⑧ 第7課 你喜欢什么？ ⑨ 文法と練習 ⑩ 第8課 中国队太厉害了！ ⑪ 文法と練習 ⑫ 復習 ⑬ 中国語の歌 ⑭ 会話作成の練習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基（2,500円＋税）		
参考書	授業で随時紹介する		

科目名	中級中国語会話Ⅱ Intermediate Chinese Conversation II	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	王 武雲	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は、基礎文法や文型を理解したうえで、ヒアリングと話す能力に重きを置いて進めていく。中国語で簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。声調や発音を練習し、単語や短文を正しく、自由に発音できるように頑張ってもらいたい。簡単な会話を聞いて理解できることと会話ができるように繰り返して練習していく。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当て、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部と考えてください。教科書の内容以外に中国語で会話を作ったり、発表したりして、練習する予定である。間違いを恐れず積極的に授業に参加しよう。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 前期の復習 ② 第2課 中国方言多，民族也多。 ③ 文法と練習 ④ 第3課 坐地铁去吧 ⑤ 文法と練習 ⑥ 第4課 用手机上网查查。 ⑦ 文法と練習 ⑧ 第5課 我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 文法と練習 ⑩ 第6課 你弹的古筝太好听了！ ⑪ 文法と練習 ⑫ 第7課 学习中文写作 ⑬ 文法と練習 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業で随時紹介する		

科目名	韓国語（入門Ⅰ） Korean (Basic I)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	金 昭鎭	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ハングルを習得し、旅行など実際の場面で役に立つ表現を身に付ける。実践的な会話能力を身に付け、テキストの読解を通して語彙力、表現能力を高めていく。「読む、書く、聴く、話す」の四技能をバランスよく伸ばし、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。到達目標としては、ハングル能力検定試験5級合格程度の韓国語能力を身につけることである。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関で通訳・翻訳および日韓交流業務に従事した経験あり。】 実務経験に基づき、受講者が日本語と韓国語の微妙な違いや、言語にかかわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半は韓国語の文字と基礎文法を学ぶ(①～⑧)。韓国語の文字が母音と子音の組み合わせであることを理解し、その仕組みと発音の規則を覚えながら、単語を使った簡単なミニ会話練習をする。後半は実際のコミュニケーションの場面を想定した会話練習(⑨～⑮)を行う。具体的には、自己紹介の仕方(⑨⑩)、相手への質問(⑪)、打ち消し(⑫)、漢数字(⑬)、存在詞の肯定形と否定形(⑭⑮)という会話の基礎となる文型を覚え、コミュニケーション能力を高めていく。また、言語学習だけでなく、ビデオ教材の視聴を通して、言語表現の背後にある韓国の文化に対する理解を深めていく。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ハングルのしくみ及び自己紹介 ② 単母音、子音（鼻音・流音）（1）、ミニ会話 ③ 半母音/パッチム（1）、ミニ会話 ④ 子音（平音）（2）/発音の規則(有声音化)、ミニ会話 ⑤ 二重母音/発音の規則(連音化)、ミニ会話 ⑥ 子音（激音・濃音）（3）、ミニ会話 ⑦ パッチム（2）/発音の規則(濃音化)、ミニ会話 ⑧ 文字のまとめ、かなのハングル表記、ミニ会話 ⑨ ～は～です「私の名前は池田菜々です」 ⑩ ～と申します「私は張民秀と申します」 ⑪ ～が、～ですか「池田さんは韓国語が専攻ですか」 ⑫ ～ではありません「韓国語は専攻ではありません」 ⑬ 漢数詞「韓国語の授業は何限ですか」 ⑭ ～に、あります/います「教室は階段のすぐ横にあります」 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙をあらかじめ予習しておくこと。 【復習】毎回小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度30%、小テスト30%、定期試験40%		
履修条件	なし。		
教科書	『三訂版・韓国語の世界へ入門編』／著：李潤玉ほか／出版：朝日出版社		
参考書	『ハングルの誕生』／著：野間秀樹／出版：平凡社新書		

科目名	韓国語（入門Ⅱ） Korean (Basic Ⅱ)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	金 昭鋏	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習するとともに、日本語や日本文化との対比の観点から韓国語や韓国文化に対する理解を深めることが目的である。到達目標としては、300語程度の基本語彙、20項目程度の文法事項を身に付ける。同時に、ハングル能力検定試験4級合格程度の韓国語能力を身につけることである。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関で通訳・翻訳および日韓交流業務に従事した経験あり。】 実務経験に基づいて、受講者が日本語と韓国語の微妙な違いや、言語にかかわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前期の学習内容を復習した後、まず実際のコミュニケーションに欠かせない、うちとけた丁寧な言い方「해요体」を学ぶ(②④⑥⑧)。また、日本語とよく似ていながら微妙に異なる助詞の使い方を覚えていく(③⑤⑦)。さらに、固有数詞(⑦)、目的を表す表現(⑨)、過去形の作り方(⑩)、否定形の作り方(⑫)、未来を表す表現(⑬)、願望を表す表現(⑭)を身につけることで、コミュニケーション能力をさらに高めていく。また、言語学習だけでなく、ビデオ教材の視聴を通して、言語表現の背後にある韓国の文化に対する理解を深めていく。		
授業計画	① オリエンテーション及び前期の復習 ② 「午後、時間大丈夫ですか」うちとけた丁寧な言い方「해요体(1)」 ③ 「民秀さんもここに座ってください」助詞～に、～も ④ 「英語のスクールに通っています」うちとけた丁寧な言い方「해요体(2)」 ⑤ 「来週、スクールで模擬試験を受けます」助詞～で、～に(人・動物) ⑥ 「電車で学校に通っていますか」うちとけた丁寧な言い方「해요体(3)」 ⑦ 「家から学校まで1時間くらいかかります」助詞～から～まで、固有数詞 ⑧ 「野球、好きですか」うちとけた丁寧な言い方「해요体(4)」 ⑨ 「土曜日に一緒に野球、見に行きましょう」目的を表す表現 ⑩ 「レポートが多かったです」過去形の作り方 ⑪ 「とてもお腹がすいています」〇語幹の用言 ⑫ 「顔色がよくないですよ」否定を表す表現 ⑬ 「春休みに何をしますつもりですか」未来を表す表現 ⑭ 「韓国に行きたいです」願望を表す表現 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙をあらかじめ予習しておくこと。 【復習】毎回小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度30%、小テスト30%、定期試験40%		
履修条件	韓国語（入門Ⅰ）を履修していること。		
教科書	『三訂版・韓国語の世界へ入門編』／著：李潤玉ほか／出版：朝日出版社		
参考書	『ハングルの誕生』／著：野間秀樹／出版：平凡社新書		

科目名	韓国語（会話Ⅰ） Korean (Conversation I)	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現を覚え、自ら発話することができ、また他者が発話した文章を正確に聞き取り、書き取ることができるようになることを目標とする。他者が発話した韓国語を正確に書き取ることができるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】 配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語の文章をパソコンのワードで作成する練習の時間も設ける。5回目と10回目の授業、それに定期試験期間中にそれぞれテストを行い(合計3回のテスト、各30点満点、3回のテスト合計90点満点)、それらの合計点で成績を評価するので、予習復習を怠らないこと。		
授業計画	① いくらですか。 ② ください。～してください。 ③ 何をお探ですか。 ④ ～して～。(1) ⑤ 第1回目テスト。何曜日ですか。 ⑥ ～へ行きます。～で～します。 ⑦ ～ですが～。～まで～。 ⑧ ～なので～。 ⑨ ～して～。(2) ⑩ 第2回目テスト。不規則変化(1) ⑪ ～ですね。 ⑫ ～して～。(3) ⑬ ～する～。～した～。(修飾) ⑭ 不規則変化(2) ⑮ 不規則変化(3) ⑯ 第3回目テスト。		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】授業で習った文章をワードで清書し、次回の授業で提出すること。		
評価方法	3回のテスト(各30点満点、合計90点満点)、ワードでの清書提出(10点満点)。		
履修条件	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。		

科目名	韓国語（会話Ⅱ）	単位数	1
	Korean（ConversationⅡ）	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	韓国語（文法・読解Ⅰ・Ⅱ）、「韓国語（会話Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現をさらに覚え、自ら発話することができ、また他者が発話した文章を正確に聞き取り、書き取ることができるようになることを目標とする。他者が発話した韓国語を正確に書き取ることができるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり】 配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。5回目と10回目の授業、それに定期試験期間中にそれぞれテストを行い（合計3回のテスト、各30点満点、3回のテスト合計90点満点）、それらの合計点で成績を評価するので、予習復習を怠らないこと。		
授業計画	① 理由。推測（1） ② ～ですが、～（接続1）。推測（2） ③ 不規則変化（4） ④ ～できません（不可能）。 ⑤ 第1回目テスト。～ならば。 ⑥ それならば～。～するのはやめましょう、～しないでください。 ⑦ ～ですが（接続2）。否定疑問文 ⑧ ～しようと思う（意図）。～するとき。 ⑨ ～した後に。～から（人、場所）。 ⑩ 第2回目テスト。～しています（進行形）。 ⑪ ～しに行きます。～する前に。 ⑫ ～するたびに。～してみる。 ⑬ ～ならばと思う（希望、願望）。～になる（変化）。 ⑭ ～でも、～か（選択、提案）。～することにする（決定）。 ⑮ ～する間。 ⑯ 第3回目テスト		
予復習等	【予習】 次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】 授業で学んだ文章をワードで清書し、次回の授業で提出すること。		
評価方法	3回のテスト（各30点満点、合計90点満点）、ワードでの清書提出（10点満点）。		
履修条件	「韓国語（文法・読解Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（会話Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。		

科目名	韓国語（文法・読解Ⅰ）	単位数	1
	Korean（Grammar and ReadingⅠ）	必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「韓国語（入門Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項を習得し、韓国語の基本的な表現が理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な文法事項を習得し、基本的な読解ができるようになることを目標とする。授業で学んだ文法事項を習得しているか、授業やテストで示された文章が読み取れるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】 配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。5回目と10回目の授業、それに定期試験期間中にそれぞれテストを行い（合計3回のテスト、各30点満点、3回のテスト合計90点満点）、それらの合計点で成績を評価するので、予習復習を怠らないこと。		
授業計画	① ～です。～ではありません。 ② あります。います。ありません。いません。 ③ ～します。～しますか。 ④ ～ですか。 ⑤ 第1回目テスト。何ですか。 ⑥ いかがですか。 ⑦ ～なさいます。～してください。～しましょう。 ⑧ ～を～します。 ⑨ どこに行きますか。 ⑩ 第2回目テスト。時間 ⑪ 何が好きですか。 ⑫ 数 ⑬ ～しましょうか。～でしょう。 ⑭ 過去形 ⑮ 不規則変化（1） ⑯ 第3回目テスト		
予復習等	【予習】 次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】 3回行うテストはいずれも評価の際の比重は同じなので、毎回授業の復習に努めること。		
評価方法	3回のテスト（各30点満点、合計90点満点）、授業態度（10点満点）。		
履修条件	「韓国語（入門Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ）」で使用した教科書。		

科目名	韓国語（文法・読解Ⅱ） Korean（Grammar and ReadingⅡ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・講読Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項をさらに習得し、韓国語の基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な文法事項を習得し、基本的な読解ができるようになることを目標とする。授業で学んだ文法事項を習得しているか、授業やテストで示された文章が読み取れるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】 配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。5回目と10回目の授業、それに定期試験期間中にそれぞれテストを行い（合計3回のテスト、各30点満点、3回のテスト合計で90点満点）、それらの合計点で成績を評価するので、予習復習を怠らないこと。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① いくらですか。 ② 何時ですか。 ③ 数詞 ④ 文の接続（1） ⑤ 第1回目テスト。文の接続（2） ⑥ ～から～まで。 ⑦ ～だけれども。～しないでください。 ⑧ ～で（場所、手段） ⑨ 不規則変化（2） ⑩ 第2回目テスト。理由 ⑪ 修飾（1） ⑫ 修飾（2） ⑬ 不規則変化（3） ⑭ 不規則変化（4） ⑮ 推測 ⑯ 第3回目テスト 		
予復習等	【予習】 次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】 3回行うテストはいずれも評価の際の比重は同じなので、毎回授業の復習に努めること。		
評価方法	3回のテスト（各30点満点、合計90点満点）、授業態度（10点満点）。		
履修条件	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・講読Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。		

科目名	情報処理概論 Introduction to Computer Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代社会では、コンピュータやスマートフォンを使用した情報の収集、情報の分析・解析、情報の発信といった様々な情報処理が行われている。また、実際に身の周りで使われている人工知能の応用技術について理解する。情報処理に関する基礎知識および、情報化社会の問題点やそれを踏まえた見識を身に着けることを目標とする。		
授業概要	現代社会において、コンピュータや情報通信は欠かせないものとなっている。本講義では、基本的なコンピュータの仕組みやシステム、ネットワークについて学習する。また、近年急速に発展した人工知能(AI)やデータサイエンス、仮想現実(VR, AR, MR)についても、最新の研究結果などを交えながら学んでいく。さらに、人工知能の発展に伴い、今後起こり得る社会的な問題と人工知能の未来についても議論する。なお、皆さんの興味関心や社会情勢の変化等を踏まえて、外部講師の招へいや講義内容の一部変更を行う可能性もある。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② ハードウェアとソフトウェア（1） ③ ハードウェアとソフトウェア（2） ④ ネットワークとセキュリティ ⑤ 海外における情報科学技術事情 ⑥ まとめ（前半） ⑦ 国内外の科学技術政策 ⑧ 人間の情報処理 ⑨ データサイエンス（1） なぜデータサイエンスなのか ⑩ データサイエンス（2） データ分析の重要性 ⑪ 人工知能（1） 人工知能とは何か ⑫ 人工知能（2） 人工知能がもたらす未来 ⑬ 人工知能（3） 技術革新と人間の未来 ⑭ 仮想現実（VR, AR, MR） ⑮ まとめ 		
予復習等	【予習】 ニュースや新聞などで、情報処理に関する内容について、チェックする。 【復習】 学んだ内容について再度プリントをよく読む。		
評価方法	出席状況および授業態度20%、授業内課題80%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	情報処理演習 I (表現) Computer Skills I (Document Creation)	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	木村 充位	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	実用的な文書の作成方法、ホームページ作成による情報発信方法、パワーポイントによるプレゼンテーションの方法などを学び、さまざまな方法で自己の表現が出来るようになること、卒業後の進路に役立つ資格取得を目的とする。専門教育科目の「情報・言語コミュニケーション科目」の分野で「情報処理演習 I (表現)」を学ぶことによって、学生が社会で活躍するため、さまざまな方法によって自己表現(文書による表現、ウェブ上での表現、プレゼンテーションによる表現)が出来るようになることを到達目標とする。		
授業概要	表作成、図作成、段組、拡張書式の設定、グラフの挿入、オブジェクトの埋め込みなどワープロソフト (Word) を使った実用的文書作成の方法を学ぶ。さらに、タグ入力、ホームページ作成ソフトを利用したホームページによる情報発信の仕方学ぶ。さらに、プレゼンテーションソフト (Power Point) を使って、効果的な発表方法を学ぶ。また、文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催するワープロ検定1級、ホームページ作成2級の資格取得を意識した演習も行う。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ビジネス文書 (表、詳細な地図の作成 (1)) ② ビジネス文書 (表、詳細な地図の作成 (2)) ③ ビジネス文書 (地図の作成 (1)) ④ ビジネス文書 (地図の作成 (2)) ⑤ 実用文書の作成 (段組と拡張書式 (1)) ⑥ 実用文書の作成 (段組と拡張書式 (2)) ⑦ 実用文書の作成 (グラフの挿入) ⑧ ホームページ作成 (タグ入力) ⑨ ホームページ作成 (作成ソフトの利用 (1)) ⑩ ホームページ作成 (作成ソフトの利用 (2)) ⑪ ホームページ作成 (作成ソフトの利用 (スタイルシートの作成)) ⑫ 文書デザイン (画像挿入、図形の挿入、特殊文字 (1)) ⑬ 文書デザイン (画像挿入、図形の挿入、特殊文字 (2)) ⑭ PowerPoint の基本操作 (スライドの作成とスライドショーの実行 (1)) ⑮ PowerPoint の基本操作 (スライドの作成とスライドショーの実行 (2)) ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】各テーマについて、本などで調べておく。 【復習】配布資料を読み、授業で作成したデータを再度自分で作成する。		
評価方法	出席状況・授業態度・レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。私語は厳禁とする。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報処理演習 I (関数) Computer Skills I (Spreadsheet)	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本演習は、表計算に関わる基本的な知識と技術の習得を目的とし、今後のより専門的な情報処理に関する知識・技術の習得に向けたステップである。また、関数機能、データベース機能、グラフ機能といったExcelの実践的活用法を学ぶ。表計算ソフトを用いた表計算、関数の活用、グラフ作成能力を身につけることを目標とする。		
授業概要	表計算ソフト(Excel)の基本的な操作方法を学び、Excelによるデータ処理操作方法について演習を通じて習得する。表計算処理を中心に、表やグラフの作成と効果的な活用法、関数を用いたデータの処理方法について学習する。また、Excelマクロを用いたプログラミング(VBA, Visual Basic for Application)の初歩についても学び、Excelマクロを用いた効率的なデータ処理方法も習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 表の作成 ③ 関数(1) 絶対参照と相対参照 ④ 関数(2) 文字列操作関数、統計関数 ⑤ 関数(3) 数学/三角関数 ⑥ 関数(4) 論理関数1 ⑦ 関数(5) 論理関数2 ⑧ 演習(1) 統計関数、表検索 ⑨ 基本的なグラフ、複合グラフ ⑩ 演習(2) 数学/三角関数、論理関数 ⑪ 演習(3) 複合処理 ⑫ オートフィルタ ⑬ Excelマクロ(1) マクロの基礎 ⑭ Excelマクロ(2) 実践演習 ⑮ まとめ 		
予復習等	【予習】前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。		
評価方法	出席状況及び授業態度20%、授業内試験80%		
履修条件	なし。		
教科書	『完全マスター Excel2016』/出版: noa出版		
参考書	なし。		

科目名	情報処理演習Ⅱ（応用） Computer Skills Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	木村 充位	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>学生が社会で活躍するため、より実用的な文書の作成方法、ホームページ作成による情報発信方法などを学び、実践的な能力を身につけること、卒業後の進路に役立つ資格取得を目的とする。専門教育科目の「情報・言語コミュニケーション科目」の分野で「情報処理演習Ⅱ（応用）」を学ぶことによって、学生が社会ですぐに活用できるような、より実践的な方法（実用的な文書の作成、高度なホームページの作成、Excelによる事務の効率化の方法）を身につけることを到達目標とする。</p>		
授業概要	<p>1年後期の情報処理演習Ⅰ（表現）で学習したことを基礎にした実用的な文書作成（文書デザイン）やホームページ作成について学ぶ。また、表計算ソフト（Excel）を使った財務関数など事務の効率化について知る。特に文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催する文書デザイン1級・2級レベル、ホームページ作成1・2級レベルの資格取得を意識し、基礎的な設定から高度な設定までを順を追って解説する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Wordの実践的な活用（表、図形の作成） ② 文書デザイン基礎（1）（表、図形の作成） ③ 文書デザイン基礎（2）（表、図形の作成） ④ 文書デザイン応用（1）（拡張書式、図形の組み合わせ） ⑤ 文書デザイン応用（2）（拡張書式、図形の組み合わせ） ⑥ ホームページ作成（1）（タグ入力） ⑦ ホームページ作成ソフトによる作成（2）（スタイルシートの利用） ⑧ ホームページ作成ソフトによる作成（3）（表、画像、ハイパーリンク） ⑨ ホームページ作成ソフトによる作成（4）（イメージマップの作成） ⑩ ホームページ作成ソフトによる作成（5）（フォームの作成（1）） ⑪ ホームページ作成ソフトによる作成（6）（フォームの作成（2）） ⑫ ホームページ作成ソフトによる作成（7）（サムネイル画像の挿入） ⑬ ホームページ作成ソフトによる作成（8）（JavaScriptの挿入） ⑭ Excelの実践的な活用（財務関数の利用（1）） ⑮ Excelの実践的な活用（財務関数の利用（2）） ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】各テーマについて、本などで調べておく。 【復習】配布資料を読み、授業で作成したデータを再度自分で作成する。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度・レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。私語は厳禁とする。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報処理演習Ⅲ（発展） Computer Skills Ⅲ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>データベースソフト（Microsoft Access）を使い、演習を通じて、日常生活や仕事を進める上で利用されているデータベースやデータベース作成方法について、演習を通じて習得する。現在広く普及しているデータベースについて学ぶことは有用である。Accessを使って、簡単なデータベースを扱えるようになることを目標とし、情報処理技能検定（データベース）2級レベルの到達度を目指す。</p>		
授業概要	<p>データベースを用いる目的は、作業の効率化である。データを効率的に管理し、正確かつ迅速に処理する手段がデータベースになる。本演習では、データベースソフト（Microsoft Access）を使って、ソフトの扱い方から始め、データベースの概念の理解、データベース作成方法を習得する。また、Accessを用いたプログラミング（VBA, Visual Basic for Application）の初歩についても学ぶ。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② データベース、Accessの概要 ③ テーブルの作成 ④ データのインポート ⑤ クエリの基本 ⑥ フォームの基本 ⑦ レポートの基本 ⑧ リレーションデータベースの作成 ⑨ 効率の良いフォームの作成 ⑩ 集計クエリ、クロス集計クエリ ⑪ 選択クエリ、更新クエリ、削除クエリ ⑫ レポートの作成 ⑬ レポートのレイアウト ⑭ マクロの作成 ⑮ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】 前回の授業で指定した教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。 【復習】 授業でやった内容を再度一通り演習を行うこと。</p>		
評価方法	出席状況及び授業態度30%、小テスト70%		
履修条件	なし。		
教科書	『できるAccess 2016』／著：広野忠敏ほか／出版：インプレス		
参考書	なし。		

科目名	日本語表現法Ⅰ Japanese CompositionⅠ	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本語の性質を客観的にとらえたうえで、読み手に伝わりやすい書きことばの表現はどのようなものかを自分で考えられ、作文に活用できるようになることを目的とする。さまざまな種類の文章に触れることにより、その目的は何か、目的に応じて求められる内容は何かを的確に判断し、文章を書くそれぞれの場面に応じて適切な表現を選択できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に扱う。まず日本語の特質を客観的にとらえることから始め、それを念頭に、内容を読み手に適切に伝えるための語句の選択、自然な語順、待遇表現と敬語、文章のさまざまな型を学んでいく。テキスト各節の練習問題および付録のワークブックを用いながら、実用的な文章として案内文や手紙文を書く作業や、文章の要点をとらえてまとめる練習も取り入れながら進める。課題レポートを作成するためのポイントやタイトルの付け方、内容の組み立て方も実践的に学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業についてのガイダンス、日本語の書きことばの特質（1）曖昧 ② 日本語の書きことばの特質（2）文末決定性、主語の省略について ③ 日本語の書きことばの特質（3）主題の重要視について ④ 語句の選択、自然な語順、表記についての基礎知識 ⑤ 待遇表現と敬語、敬語の種類について（1）尊敬語・謙譲語 ⑥ 敬語の種類について（2）分担型と総合型 ⑦ 婉曲語・改まり語・美化語・丁寧語、文章を書く前の留意点 ⑧ 文章の種類と型から、求められる内容について考える ⑨ サンプルを参考に案内文を作成する ⑩ 手紙文の構造研究、サンプルを参考に手紙文を作成する（1） ⑪ サンプルを参考に手紙文を作成する（2）・発表 ⑫ 要点を捉える（1）文章における骨・肉、キーワードを見つける ⑬ 要点を捉える（2）キーセンテンスを見つける、接続詞の用法 ⑭ レポートの条件、レポートの構造を知る、全体の構想を練る ⑮ レポートに題目を付ける、レポートをまとめる ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】あらかじめテキストに目を通し、漢字の読みなどを調べておくこと。 【復習】その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、課題・発表への取り組み20%、定期試験40%		
履修条件	なし。私語は厳禁とし、ほかにも授業にふさわしくない態度を慎んでほしい。		
教科書	『日本語表現法Ⅰ 付ワークブック改訂版』／著：沖森卓也・半沢幹一／出版：三省堂		
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。		

科目名	日本語表現法Ⅱ Japanese CompositionⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	まず、コミュニケーションにおけることばの重要性を再認識し、場面や相手に応じて適切なことば遣いができるようになること、話し手の気持ちをくみ取った話の聞き方、相づちの打ち方などができるようになることを目的とする。特に、正しい敬語を中心に丁寧語・改まり語などを実践的に学ぶことで、実生活で自分の置かれた場面や相手の立場に応じて自然に活用できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「話す」・「聞く」ことを中心に扱う。特に社会人として必須の敬語の習得に力を入れ、ロールプレイなど実践的な学習方法を取り入れ、自然に適切なことば遣いが身につくようにする。更に、緊張した場面に身を置いた際にも、自分の言いたいことを的確に伝えられるよう、話の構成技術も習得する。人前で話すことが苦手な方も自身がつき、より積極的になれるよう指導する。また「聞く」ことは「話す」以上に重要であるため、技術だけでなく、話し手の内面を思いやる表現方法についても学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業についてのガイダンス、普段のコミュニケーション力を確認する ② コミュニケーションの中のことばの重要性を再確認する ③ あいさつの目的を改めて考える、第二のあいさつ・気配りワードを用いた発話作り ④ ロールプレイ（1）初対面の相手との話題作り ⑤ 美しい発音・発声、語尾・話しぐせを意識する ⑥ 発話内容を簡潔にまとめ、明確に伝える ⑦ 敬語はなぜ必要かを改めて考える、敬語の種類と復習 ⑧ 敬語のロールプレイ（1）導入・発表の準備 ⑨ 敬語のロールプレイ（2）発表および講評 ⑩ 話の構成技術を学ぶ（1）結論から話す、優先順位をつける、手順にそって話す ⑪ 話の構成技術を学ぶ（2）ナンバーをつけて話す、5W2Hを用いて具体的に話す ⑫ 話の構成技術を学ぶ（3）主題・話題・主張の方法で発話を組み立てる ⑬ 発表—主題・話題・主張の方法、聞くことの重要性を振り返る ⑭ 効果的な話の聞き方（1）自分の聞き方を振り返る ⑮ 効果的な話の聞き方（2）話し手の気持ちに寄りそう ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】あらかじめテキストに目を通し、漢字の読みなどを調べておくこと。 【復習】その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、課題・発表への取り組み20%、定期試験40%		
履修条件	なし。私語は厳禁とし、ほかにも授業にふさわしくない態度を慎んでほしい。		
教科書	『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット		
参考書	必要に応じてプリント等を配布する。		

科目名	現代国際事情 World Affairs	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木 隆人	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は、グローバル化に伴う人の移動が増大する現代において、移民の受け入れを巡る社会統合の可能性について学ぶことである。とりわけ、カナダやヨーロッパにおける多文化主義や、今日、それらの地域で注目される新しい多文化共存の理念としての間文化主義について学ぶ。到達目標としては、カナダやヨーロッパの多文化主義や間文化主義の意義について理解し、説明できることである。		
授業概要	現代における主要な国際問題として移民や難民を巡る問題がある。2018年の改正出入国管理法の成立に伴い、我が国も外国人の単純労働者の拡大に道を開くことになった。それゆえ、我が国にとって、異なる言語や文化をもつ人々をどのように日本社会に受け入れていくのかについて諸外国の事例から学ぶことは喫緊の課題である。本講義では、多文化・多民族共存の理念及び方策として、カナダやヨーロッパの多文化主義、そして、近年、それらの地域において注目される間文化主義を学ぶ。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① インTRODakション ② 現代グローバル社会と国民国家、多文化共存 ③ 日本における移民・難民問題 ④ カナダの多文化主義① ⑤ カナダの多文化主義② ⑥ カナダの多文化主義③ ⑦ カナダの多文化主義④ ⑧ ヨーロッパの多文化主義① ⑨ ヨーロッパの多文化主義② ⑩ ヨーロッパの多文化主義③ ⑪ カナダ・ケベック州の間文化主義① ⑫ カナダ・ケベック州の間文化主義② ⑬ カナダ・ケベック州の間文化主義③ ⑭ ヨーロッパの間文化主義① ⑮ ヨーロッパの間文化主義② ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】講義内で紹介する参考書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる		
評価方法	出席状況・授業態度20%、定期試験80%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	『間文化主義—多文化共生の新しい可能性』／著：ジェラルド・ブシャール（丹羽卓監訳、荒木隆人ほか訳）／出版：彩流社、その他の参考書は講義内で指示する。		

科目名	国際経済論 International Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国際社会における経済の状況を理解し、国際経済関係に対する基礎的理解の修得を目指すことにより、国際社会の経済問題について自ら考えることができるようにする。特に教育と社会資本整備の重要性を学びつつ、国際社会における女性の実情を知り、自身が国際社会に参加する意義を学習する。これによりグローバル社会の一員として、自らに与えられている選択肢を考え、国際社会の課題に対処できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	地球規模で経済が繋がるようになり、グローバリゼーションという言葉は日常に深く根差すようになった。また日欧経済連携協定（日欧EPA）や環太平洋パートナーシップ協定（TPP）など、国際取引をさらに促進させようとする協定も締結され、生活の中での国際的な物流も活発に変化している。しかし、イギリスのEU離脱（ブレグジット）に代表されるように、近年では急速な自由化に懸念を抱く考え方も出てきた。そして依然として人々が享受する豊かさは国際的に大きな偏りが存在する。本講義では、様々な国について考えながら、国際的な経済の繋がりと豊かさについて考えるものとする。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① はじめに一オリエンテーション ② 貿易利益(1)—国際分業 ③ 貿易利益(2)—比較優位の考え方 ④ 私達の生活水準—先進国と絶対的貧困 ⑤ 豊かさの捉え方(1)—GDPの基礎概念 ⑥ 豊かさの捉え方(2)—HDIとHAI ⑦ 経済成長と女性の力 ⑧ 経済的脆弱性—EVI ⑨ 様々な途上国(1)—後発開発途上国 ⑩ 様々な途上国(2)—小島嶼開発途上国 ⑪ 様々な途上国(3)—内陸開発途上国 ⑫ 貿易と産業構造 ⑬ 保護貿易の功罪 ⑭ FTA・EPAとグローバリゼーション ⑮ グローバリゼーションの光と影 ⑯ 定期試験—記述式 		
予復習等	【予習】諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】提示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度25%、定期試験75%		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨む。「生活と経済」を受講していることが望ましい。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	人間関係論 Human Relationships	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	宮本 邦雄	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	人間関係の諸相が時間（発達）と空間（生態環境）の2次元から整理できること、そして、子ども・青年、成人、高齢者の3世代について、家族、地域、学校、職場、公的空間において展開する人間関係と心の健康を理解できるようになることを目的とする。夫婦関係や親子関係、地域での子育て、教師と児童・生徒関係、学級集団、友人関係、上司一部下関係、生涯学習、集合行動・群衆、マスメディア、異文化、インターネットと人間関係、対人関係の不適応について考察を深めることを到達目標とする。		
授業概要	人間関係の諸相を時間（発達）と空間（生態環境）の2次元によって、子ども・青年、成人、老年の3段階、近接環境、中間環境、外部環境の3レベルを構成し、それぞれの枠組みで人間関係を考察する。すなわち、家族、地域、学校、職場、公的空間における人間関係を分析・解説する。さらに、夫婦関係や親子関係、地域での子育て、教師と児童・生徒関係、学級集団、友人関係、上司一部下関係、生涯学習、集合行動・群衆、マスメディア、異文化、インターネットと人間関係、対人関係の不適応を取り上げる。講義はワークシートを用いて進める。講義のテーマについて、適宜、自己の体験や人間関係についての質疑応答を行い、小レポートの作成を求め、そのフィードバックを行う。		
授業計画	① 人間行動と社会の枠組み レポートの書き方 ② 結婚と夫婦関係 ③ 親子関係と子どもの発達 ④ 家族システムと人間関係 ⑤ 地域社会と人間関係 ⑥ （1）学校の人間関係、学級集団と友人関係、 （2）学校の人間関係、教師と児童・生徒、教師集団 ⑦ （1）職場の人間関係、職業集団とコミュニケーション （2）職場の人間関係、リーダーシップ ⑧ 生涯学習とボランティアの人間関係 ⑨ 群集行動と集合行動 ⑩ マスメディアと人間関係 ⑪ 異文化間の人間関係 ⑫ インターネットと人間関係 ⑬ 対人関係の不適応 ⑭ 定期試験		
予復習等	【予習】講義のテーマについて、新聞やTV、インターネット等で情報を収集すること。 【復習】講義のワークシートを振り返り、小レポートを作成すること。		
評価方法	定期試験80%、小レポート20%		
履修条件	特になし		
教科書	指定しない		
参考書	齋藤勇「イラストレート人間関係の心理学」誠信書房、吉森護「人間関係の心理学ハンドブック」北大路書房、吉田俊和他「対人関係の社会心理学」ナカニシヤ出版 他		

科目名	観光論 Tourism	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	講義
担当者	早川 秀昭	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「観光（旅）」と社会生活や産業活動との関係を考察し、その経済的役割についての理解を深め、社会における意義を旅行産業の視点から考える。「観光」の関口は広い。その「学びの関口の広さ」から、観光を学ぶことを通じて問題発見能力―「何が必要か」「何が問題か」、そして問題解決能力―「そのために何をすべきか」「どのようにすれば解決できるか」を創造的に考える力を養い、身に着けることの大切さを理解させる。		
授業概要	【担当者の実務経験：旅行会社にてカウンターセールス、外回り営業、添乗業務および財務担当として決算業務の経験あり。】 「21世紀は観光の時代である」といわれるが、人間が人間らしく生き、人生を充実させていくうえで「観光（旅）」は不可欠である。「観光（旅）」に関わる基本的な事柄を踏まえ、観光ビジネスの特性と、観光ビジネス分野で起きていることや今後の展望について学んでいく。また地域に関して、地域がなぜ「観光振興」に熱心取り組むのか、観光消費の産業関連（地域波及）の流れと、観光と地域振興、観光とまちづくりとの関わりにも焦点を当てていく。「観光（旅）」と密接に結びついている歴史・文化の観点も加味しながら、「観光（旅）」の持つ楽しさも同時に学んでいく。		
授業計画	① オリエンテーションー観光を学ぶ意義と観光の様々な効果 ② 観光にかかわる言葉 ③ 観光のしくみ ④ 観光資源と観光対象 ⑤ 観光産業の構成と特徴 ⑥ 様々な観光ビジネスー旅行業 ⑦ 様々な観光ビジネスー宿泊産業 ⑧ 様々な観光ビジネスー交通運輸業 ⑨ 様々な観光ビジネスーテーマパーク、スキー場、展示鑑賞施設、土産品業 ⑩ 観光と情報 ⑪ 観光政策と観光行政 ⑫ 観光のマーケティング ⑬ 旅の歴史とこれからの旅行 ⑭ 観光と国際経済・社会・文化ーインバウンドと異文化理解 ⑮ まとめてオーバーツーリズムとユニバーサルツーリズム ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の授業に該当するところをよく読んでおくこと。 【復習】授業で学んだことをふまえて、実際に「旅」に出て、自分の目で観光がどのように地域経済にかかわっているのか、人間形成にどんな影響を与えているのかを考えてみる。		
評価方法	筆記試験（90%）に出席状況等（10%）を加味して評価する。		
履修条件	なし		
教科書	『観光学基礎 観光に関する14章』/ 出版：株式会社JTB総合研究所		
参考書	なし		

科目名	ホテル論 Hotel Management	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（1年後期）	科目区分	講義
担当者	豊田 哲雄	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>ホテルは最高の常識であるといわれます。その社会的に必ずや必要となるマナーやホテルの接客力を学び、多種多様な実務経験からおもてなしの心をお伝えし、身に付けていただき、将来社会人になった折に、いろんな場面でコミュニケーション力や協調性を発揮できる人材に育てること（社会の礎になれる人材の育成）を到達目標とする。また、個々人のオリジナリティを大切にしなければならないことを強調しながら教育を実行し、ユニバーサル社会にも対応できる人間にすることも到達目標である。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：ホテルにて料飲サービス・予約・販売・フロント・ブライダル・ディナーショー誘致業務に従事し、現在は総支配人。現場での経験を活かした授業を実施します】</p> <p>時代の変化がホテルを変える、またホテルとして変えてはならない普遍的ホテルサービスがある。現代から未来を予測し、今、行われているホテルの基本・実務サービスの現状と対策を伝えつつ、社会におけるホテルの価値観を講義の中で考えていただけるものにしてゆきます。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに ② ホテルの歴史 ③ ホテルの特性と組織 ④ ホテルマンシップ ⑤ 宿泊編（1）（フロント） ⑥ 宿泊編（2）（客室） ⑦ 料飲編（1）（宴会） ⑧ 料飲編（2）（レストラン） ⑨ ブライダル編 ⑩ セールスプロモーションとマーケティング ⑪ 予約業務編 ⑫ 企画と各セクションの連携 ⑬ 管理部門の業務と機能 ⑭ 地域とホテル、その将来像 ⑮ レポート作成方 ⑯ レポート提出について 		
予復習等	<p>【予習】新聞 TV & webニュース 広告媒体から時事の変化を毎日記録しておくこと。 【復習】配布レジュメの見直しと授業中に強調したキーワードからホテルを学ぶこと。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度 評価率70% レポート提出（必須）評価率30%		
履修条件	学修規定による。 真摯な態度で授業に臨み、私語は厳禁である。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	専門演習 Seminar	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>専門演習に関連したテーマについて、専任教員の指導のもと研究に関する知識を身につける。学生自らが文献調査を行い、問題を発見し、分析・解析していく能力を養う。また、口頭発表の仕方、論文・レポートの書き方を学ぶ。ただし、情報系の専門演習では、論文・レポートは書かず、プログラミングについて学ぶ。さらに、卒業研究に向けての動機付けを行う。</p>		
授業概要	<p>ゼミは、1年後期に実施されるゼミ説明会を参考に、自分の研究分野と指導教官を決める。ゼミ配属が決定した後、各担当教官の指導に従い、テーマを設定して、調査・研究を行い、その成果を口頭発表し、レポートにまとめていく。授業の中で卒業研究のテーマを絞り込んでいく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① （情報）プログラムの基本と実行① ② （情報）プログラムの基本と実行② ③ （情報）プログラムの基本と実行③ ④ （情報）プログラムの基本と実行④ ⑤ （情報）プログラムの基本と実行⑤ ⑥ （情報）テキストによるプログラム学習① ⑦ （情報）テキストによるプログラム学習② ⑧ （情報）テキストによるプログラム学習③ ⑨ （情報）テキストによるプログラム学習④ ⑩ （情報）テキストによるプログラム学習⑤ ⑪ （情報）テキストによるプログラム学習⑥ ⑫ （情報）テキストによるプログラム学習⑦ ⑬ （情報）テキストによるプログラム学習⑧ ⑭ （情報）テキストによるプログラム学習⑨ ⑮ （情報）プログラム課題① ⑯ （情報）プログラム課題② 		
予復習等	<p>【予習】予習の内容については各担当教員が授業の中で提示する。 【復習】毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。</p>		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	2年に進級する必要な合計単位数が取得できること。		
教科書	各担当教員が授業の中で提示する		
参考書	各担当教員が授業の中で提示する		

科目名	卒業研究〔国文〕	単位数	2
	Graduation Thesis/Graduation Works	必修区分	必修
開講学科	国際文化学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	学生自ら問題意識を持って、自分が関心をもつテーマを研究し、卒業論文または卒業作品を作成する。大学生として恥ずかしくない卒業論文または卒業作品を完成することを目指す。		
授業概要	各担当教官の指導のもとに、研究計画を立て、これに基づいて調査研究を進めていく。最後にその成果を卒業論文または卒業作品としてまとめる。各担当教官のもとで卒業論文または卒業作品発表会を開催し、人前で研究の成果を発表する。		
授業計画	①（情報）作品テーマの決定 ②（情報）コンテンツの決定 ③（情報）プログラムデータ収集① ④（情報）プログラムデータ収集② ⑤（情報）プログラムデータ収集③ ⑥（情報）プログラムデータ収集④ ⑦（情報）プログラム作成① ⑧（情報）プログラム作成② ⑨（情報）プログラム作成③ ⑩（情報）プログラム作成④ ⑪（情報）プログラム作成⑤ ⑫（情報）プログラム作成⑥ ⑬（情報）プレゼンテーションデータ作成① ⑭（情報）プレゼンテーションデータ作成② ⑮（情報）プレゼンテーションデータ作成③ ⑯（情報）高大連携の卒業研究発表		
予復習等	【予習】予習の内容については各担当教員が授業の中で提示する。 【復習】毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する		
履修条件	前期の専門演習の単位を取得したこと		
教科書	各担当教員が授業のなかで提示する		
参考書	各担当教員が授業のなかで提示する		